

痔・肛門出血について

尾島クリニック

矢島 靖巳 先生

ショートショートで有名な星新一さんの作品に口が肛門の機能を持ち、肛門が口の機能を持つといった地球人と逆の宇宙人が出てきます。こんな宇宙人だったら口の調子が悪くなればすぐに病院に行くと思います。しかし地球の現実には、多くの人が肛門の病気となると恥ずかしくて、なかなか病院に行きたがりません。テレビコマーシャルでやっている薬を薬局で買い、自分で治療をされる人も多いと思います。しかし、肛門の病気をあなどってははいけません。危険な病気が潜んでいる可能性もあるからです。

まず肛門からの出血を起こす代表的な三つの痔の特徴についてお話ししましょう。肛門の奥にできるのが内痔核です。排便時に少量からやや多めの真っ赤、つまり鮮紅色の出血を認めますが、痛みはありません。ただし病気が進むと排便時に痔核という膨らんだ痔が脱出するようになり、これが戻らなくなったり痛みを伴うようになってきます。この痔が一番多く見受けられるものです。

次に外痔核。これは肛門部にアズキ大ほどの硬いかたまりを認め、排便に関係なく強い持続的な痛みを伴います。かたまりが破れたときにやや黒みがかかった暗赤色の出血を認めることがあります。

三つ目は裂肛、俗に言う切れ痔です。便秘がちな女性に多くみられます。出血は鮮紅色で、紙につく程度で、排便時とその後もしばらく痛みが続きます。

多くの方は肛門出血を痔からと思っています。実際、今までご説明した痔による場合が多いわけですが、ほかの病気の場合もあるということを知っておいてください。

痔以外に肛門出血の生じる病気として直腸癌、S状結腸癌、一部のポリープ、大腸憩室症、炎症性腸疾患などがあります。中でも癌の出血は早期では肉眼的に分からないことが多く、検診の便潜血の検査により発見されることがしばしばあります。

手遅れにならないためにも、また適切な痔の治療のためにも医療機関で診察を受けることをお勧めします。